

キーワード検索:

📄 トップページ

📄 渡航情報を調べる

📄 海外安全お役立ち情報

📄 海外安全相談センター

パキスタン

Pakistan

エリアを選択してください

▼パキスタン

スポット情報・危険情報

安全対策基礎データ

テロ概要

在外公館アドレス

※本情報は、海外に渡航・滞在される方が自分自身の判断で安全を確保するための参考情報です。本情報が発出されていないからといって、安全が保証されるというものではありません。

※本情報は、法令上の強制力をもって、個人の渡航や旅行会社による主催旅行を禁止したり、退避を命令するものでもありません。

※海外では「自分の身は自分で守る」との心構えをもって、渡航・滞在の目的に合わせた情報収集や安全対策に努めてください。

【感染症関連情報】

【感染症関連情報】はこちら

感染症関連情報が発出されている場合があります。

▲TOP

【最新スポット情報】

【危険情報】はこちら

パキスタン: イスラマバード市内のマーケットを標的としたテロの可能性 (2008/07/11)

1. 7月11日、パキスタンの治安当局から、在パキスタン日本国大使館に対し、イスラマバード市内H-9地区で毎週開催されているフライデー・マーケット及びサンデー・マーケットについては、爆弾テロが起こる可能性が排除できないため、近づかないでほしい旨の注意喚起がありました。

2. また、最近、イスラマバード市内では、外交団地区、外交団関係施設(外交団地区外の事務所や自宅)の一部、政府機関、軍・警察等治安当局の施設に対する大幅な警備強化が図られています。

さらに、治安当局によれば、デンマーク大使館前のテロ事件や、連邦直轄部族地域(FATA)の情勢、ラール・マスジッド事件から1周年を迎えたことなどから、欧米、中国の外交団や関連施設、政府機関、治安当局等を中心に警備強化を行っているとのこと。

3. 上記いずれの情報も、日本をねらった特定の脅威が存在するものではないとのことですが、パキスタンに渡航・滞在される方は、次の点に留意しつつ、安全を確保するよう十分に注意してください。

(1)テロの標的となりやすい場所(政府機関、軍・警察等治安当局施設(車両等を含む。)、欧米関連施設、宗教関連施設等)には、できる限り近づかないでください。

(2)しばらくの間は、H-9地区のフライデー・マーケット及びサンデー・マーケット並びにラール・マスジッド、メロディー・マーケット、アッパラ・マーケット、ホリデーインなどG-6地区内の人の集まる場所には不用意に近づかないでください。

(3)集会やデモが行われている場所には、決して近づかないでください。

(4)マーケットやバス停など人の集まる場所での用事は、短時間で効率的に行うとともに、常に周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場から離れてください。

(5)万一、被害に遭った場合や周囲に異常を発見した場合には、速やかに在

パキスタン日本国大使館又は在カラチ日本国総領事館へ御連絡ください。

なお、爆発事件等に関しては、以下も併せて御参照ください。

(パンフレットは、<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html>に掲載)

(1)2008年6月26日付け広域情報「爆弾テロ事件に関する注意喚起」

(2)パンフレット「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策Q&A」

(3)パンフレット「海外旅行のテロ・誘拐対策」

(問い合わせ先)

○外務省領事局邦人テロ対策室(テロ・誘拐に関する問い合わせ)

電話番号:(代表)03-3580-3311(内線)3679

○外務省領事局海外邦人安全課(テロ・誘拐に関する問い合わせを除く)

電話番号:(代表)03-3580-3311(内線)5139

○外務省海外安全相談センター(国別安全情報等)

電話番号:(代表)03-3580-3311(内線)2902

○外務省 海外安全ホームページ:<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(携帯版):<http://www.annzen.mofa.go.jp/i/>

○在パキスタン日本国大使館

電話番号:(92-51)227-9320

○在カラチ日本国総領事館

電話番号:(92-21)522-0800

パキスタン:イスラマバード市内のマーケットを標的としたテロの可能性(2008/07/11)

パキスタン:カラチ市内における連続爆弾テロ事件の発生(2008/07/08)

パキスタン:イスラマバード市内における自爆テロの発生(2008/07/07)

アジア地域:夏季海外旅行シーズン中の注意喚起(2008/07/07)

パキスタン:デンマーク大使館を標的とした自爆テロの発生(2008/06/02)

→スポット情報一覧

▲TOP

【危険情報】

本情報は2008/07/14現在有効です。

【最新スポット情報】はこちら

【感染症関連情報】はこちら

パキスタンに対する危険情報の発出(2008/05/30)

- アフガニスタンとの国境付近一帯、連邦直轄部族地域[FATA]南北ワジリスタン管区、管理ライン付近

:「退避を勧告します。渡航は延期してください。」(継続)

- バロチスタン州デラ・ブグティ郡及びコールー郡、シンド州ジャコババード郡

:「渡航の延期をお勧めします。」(やむを得ぬ事情により滞在される方を除き、安全な場所へ退避することをお勧めします。)(継続)

- FATA(アフガニスタンとの国境付近一帯及び南北ワジリスタン管区を除く)、北西辺境州(アフガニスタンとの国境付近一帯、ペシャワル市、コヒスタン郡、マンセーラ郡、バタグラム郡、アボダバード郡、ハリプール郡を除く)

:「渡航の延期をお勧めします。」(組織的な安全対策をとることができない方は、同地域への渡航を厳に差し控えるようお勧めします。)(継続)

- イランとの国境付近一帯、バロチスタン州クエッタ市

:「渡航の延期をお勧めします。」(継続)

- 北西辺境州ペシャワール市(イスラマバード市とペシャワール市間の主要幹線道路を含む)

:「渡航の是非を検討してください。」(引き下げ)

- 北西辺境州コヒスタン郡、マンセーラ郡、バタグラム郡、アボタバード郡、ハリプール郡、AJK[パキスタン側カシミールの一部でアーザード・ジャンムー・カシミールと称される地域](管理ライン付近を除く)、バロチスタン州(アフガニスタン及びイランとの国境付近一帯、デラ・ブグティ郡、コールー郡、クエッタ市を除く)、シンド州(ジャコババード郡を除く)

:「渡航の是非を検討してください。」(継続)

- イスラマバード首都圏、北方地域(管理ライン付近、アフガニスタンとの国境付近一帯を除く)

:「十分注意してください。」(引き下げ)

- パンジャブ州

:「十分注意してください。」(継続)

地図1

☆詳細については、下記の内容をよくお読みください。

1. 概況

- (1)アフガニスタンとの国境付近一帯及び連邦直轄部族地域(FATA)南北ワジリスタン管区内では、ローカル・タリバーンなどのミリタントと治安部隊との戦闘が断続的に行われています。また、部族間や宗派間の抗争によるテロ事件が頻発するなど、極めて危険な状況です。
- (2)イランとの国境付近一帯では、麻薬密売グループなどがイランやアフガニスタンとの間で越境を繰り返している可能性があります。
- (3)上記のほか、パキスタン各地では、特に2007年以降、主に政府関係施設や治安当局をねらったテロ事件、宗派間抗争に起因する事件、デモなどが頻発しています。2008年2月の総選挙を経て、同3月のギラーニ内閣成立後は、多くの地域で治安情勢は小康状態を保っていますが、パキスタンにおいては何らかの事件などの発生により、短期間で国全体の治安情勢が急変する場合があります。また、食料価格の高騰や飲料水・電力不足など、庶民の生活に直結する問題も潜在しています。
- (4)については、パキスタンに渡航・滞在される方は、次の点に十分留意してください。
 - (イ)テロの標的となりやすい場所(政府機関、軍・警察等治安当局の施設・車両等、欧米関連施設、宗教関連施設等)には、できる限り近づかないでください。
 - (ロ)集会やデモが行われている場所には、決して近づかないでください。
 - (ハ)マーケットやバス停など人の集まる場所での用事は、短時間で効率的に行うとともに、常に周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場から離れてください。

2. 地域情勢

- (1)アフガニスタンとの国境付近一帯、FATA南北ワジリスタン管区、管理ライン付近
:「退避を勧告します。渡航は延期してください。」

(イ)アフガニスタンとの国境付近一帯

アフガニスタンの悪い治安情勢の影響と両国間国境管理の難しさもあり、ローカル・タリバーンなど反政府勢力の戦闘員(ミリタント)がアフガニスタンとの間で越境を繰り返したり、同地域に潜伏している可能性があります。また、同地域の一部では、パキスタン軍がミリタント掃討軍事作戦を断続的に行っています。このほか、2007年11月、FATAクーラム管区などで宗派間抗争が発生するなど不安定な状態が続いています。

なお、アフガニスタンへの入国は、同国の治安情勢が極めて不安定なため、陸路、空路を問わず厳に差し控えてください。

(ロ)FATA南北ワジリスタン管区

FATA南北ワジリスタン管区では、ミリタントの影響力が強まり、パキスタン政府の影響力が限定的になっていると言われています。

同管区では、2005年から2006年にかけて和平合意が成立し、一応の治安が保たれていましたが、2007年7月のラールマスジッド事件(於イスラマバード)を契機に、ミリタント側が和平合意を一方的に破棄して治安部隊に対する攻撃を再開し、軍がこれに対応して軍事作戦を再開するなど、治安状況が急速に悪化しました。2008年3月の新政権発足後、新たな和平合意への努力がなされていますが、今後どのような状況になるかは不透明です。

(ハ)管理ライン付近

近年、パキスタンとインドの間では信頼醸成が進んでいますが、「管理ライン」を挟んで両国軍が展開したままであり、「管理ライン」付近の情勢については依然として注意が必要です。

(2)バロチスタン州デラ・ブグティ郡及びコールー郡、シンド州ジャコババード郡

「渡航の延期をお勧めします。」(やむを得ぬ事情により滞在される方を除き、安全な場所へ退避することをお勧めします。)

(イ)バロチスタン州デラ・ブグティ郡及びコールー郡

これらの地域では、政府治安部隊の反政府武装民に対する掃討作戦が継続され、これに対して、武装民側は反政府闘争を継続し、テロ行為を続けています。一般住民にも被害が発生しており、治安状況回復の兆しはみられません。

(ロ)シンド州ジャコババード郡

バロチスタン州デラ・ブグティ郡及びコールー郡の反政府武装民が、同州とシンド州境界周辺を往来したり、ジャコババード郡内に流入してきており、治安は非常に不安定となっています。

(3)FATA(アフガニスタンとの国境付近一帯及び南北ワジリスタン管区を除く)、北西辺境州(アフガニスタンとの国境付近一帯、ペシャワル市、コヒスタン郡、マンセーラ郡、バタグラム郡、アボダバード郡、ハリプーール郡を除く)

「渡航の延期をお勧めします。」(組織的な安全対策をとることができない方は、同地域への渡航を厳に差し控えるようお勧めします。)

FATA、北西辺境州では、2007年7月にイスラマバードで発生したラール・マスジッド事件を契機として、飛躍的にテロ事件が増加しました。

FATAでは、2007年前半までは比較的安全であると言われていたモーマンド管区やハイバル管区でも治安状況は悪化し、現在は安全な管区は存在しないと言われています。特に、パキスタン政府はFATA地域の特殊事情を考慮して、1947年の建国以来、同地域で連邦法を施行していないため、外国人旅行者に何か問題が生じた場合でも、当局による迅速な対応は期待できない状況であることも考慮する必要があります。

北西辺境州の南部では、南北ワジリスタン管区の影響を受け、ローカル・タリバーンによるものと思われるテロ事件が頻発しています。2008年に入ってから、コハート、ハンゲー、バンヌー、タンク、デラ・イスマイル・カーンやその近郊で警察や軍等の治安部隊に対する自爆テロ等が頻発し、多数の死傷者が生じています。

北西辺境州の西部スワートのミンゴラ等は多くの旅行者が訪れる観光地でしたが、2007年7月以降、宗教過激主義者やミリタントらの活動が活発化したため、2007年11月、政府は同地域で軍事掃討作戦を行い、多大な死傷者を出しました。掃討作戦は終了しましたが、予断を許さない状況が続いています。

つきましては、同地域に渡航・滞在を予定されている方は、どのような目的であれ渡航を延期することをお勧めします。特に、組織的な安全対策をとることができない方は、同地域への渡航を厳に差し控えるようお勧めします。

(4) イランとの国境付近一帯、パロチスタン州クエッタ市

：「渡航の延期をお勧めします。」

(イ) イランとの国境付近一帯

イランのシスターン・バルチスタン州を含む東部地域では、治安当局による大規模な麻薬掃討作戦が展開されており、武装した麻薬密売グループとの間で激しい衝突が発生しています。これら麻薬密売グループは、イラン、パキスタン、アフガニスタンとの間で越境を繰り返していると言われています。

特に、シスターン・バルチスタン州では、外国人が誘拐される事件や車両襲撃事件も多発していますので、陸路によるイラン入国は厳に差し控えてください。

(ロ) パロチスタン州クエッタ市

クエッタ市では、以前から反政府武装民によるテロ事件が多発しており、2008年に入ってからこの傾向に変化はみられません。特に政府関係者、治安機関員をねらい、二輪車を使用して銃撃を加えて暗殺を敢行するテロ行為が頻発しており、発砲の流れ弾により一般通行人にも被害が及ぶ事案も起きています。また、一般街頭犯罪も増加傾向にあり、治安情勢が良好とは言えません。

(5) 北西辺境州ペシャワル市(イスラマバード市とペシャワル市間の主要幹線道路を含む)

：「渡航の是非を検討してください。」

ペシャワル市では、2007年に入ってから、警察官に対する自爆テロ(1月)、赤十字国際委員会駐車場での自爆テロ(2月)、ビデオ店爆破(3月、7月、9月、10月)、空港内ラウンジでの爆発(4月)、旧市街に所在するホテルでの自爆テロ(24人死亡・20人以上負傷、5月)、市近郊での中国人襲撃事件(3人死亡・1人負傷、7月)、バザール付近駐車場での爆弾爆発(17人以上負傷、9月)などが発生しました。2008年1月には宗派間抗争によると考えられるモスクでの自爆テロ(10人死亡、20人以上負傷)や近郊でのビデオ店爆破事件などが発生しています。

しかしながら、2月の総選挙前までの状況に比べ、テロ事件等の発生は顕著な減少傾向にあり、治安状況の改善が認められることから、これまでペシャワル市に発出していた危険情報を「渡航の延期をお勧めします。」から「渡航の是非を検討してください。」に引き下げます。なお、ペシャワル市はFATAに隣接し、また、ミリタントの活動が活発な北西辺境州西部、南部とも隣接していますので、隣接している地域の治安情勢にも注意する必要があります。

- (6) 北西辺境州コヒスタン郡、マンセーラ郡、バタグラム郡、アボダバード郡、ハリプール郡、AJK(管理ライン付近を除く)、バロチスタン州(アフガニスタン及びイランとの国境付近一帯、デラ・ブグティ郡、コールー郡、クエッタ市を除く)、シンド州(ジャコババード郡を除く) :「渡航の是非を検討してください。」

(イ) 北西辺境州コヒスタン郡、マンセーラ郡、バタグラム郡、アボダバード郡、ハリプール郡北西辺境州東部の同地域では、2007年7月以降、過激派等によるテロや抗議行動が発生しており、2007年10月、バタグラムで米国系NGOの宿舎に爆発物が投げ入れられて、3人が負傷する事件や、2008年2月、マンセーラで欧州系NGO事務所が襲撃されて、3人死亡、8人が負傷する事件などが発生しています。

(ロ) AJK(管理ライン付近を除く)

AJKは、北西辺境州東部と隣接しているため、マンセーラ郡等隣接地域の情勢に注意を払う必要があります。なお、AJK全域は旅行制限地域となっており、AJKに立ち入るためにはパキスタン内務省の許可を取得する必要があります。

(ハ) バロチスタン州(アフガニスタン及びイランとの国境付近一帯、デラ・ブグティ郡、コールー郡、クエッタ市を除く)

(a) シンド州との州境付近

シンド州とバロチスタン州を結ぶ交通要所の街ハブでは、2007年7月、中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人は被害を逃れたものの、一般通行人に多数の被害者が出ました。その後も、時限爆弾や手榴弾を使用したテロ事案が頻発し、反政府武装民が時折犯行声明を出しています。ついては、同街への立ち寄りにはできるだけ避けることをお勧めします。やむを得ずハブに立ち入ったり、同街を通過する際には、細心の注意を払い、警備員を常時同行させるなどの安全対策を講じてください。

(b) 上記(a)を除く地域

クズダール、トゥルバット、グワダル、スイビー、マストウング、ヌシキ等においても、反政府闘争路線を継続する武装民による爆破テロや政府関係者、治安機関員への銃撃事案が発生しています。幹線道路付近には地雷が埋設され、この爆発による被害も発生しています。やむを得ずこれらの地域に立ち入る際には、細心の注意を払い、警備員を車両に同乗させる等の安全対策を講じることをお勧めします。なお、クエッタ市と主要幹線道路を除く同州全域は旅行制限地域となっており、これらの地域に立ち入るためにはパキスタン内務省の許可を取得する必要があります。

(二) シンド州(ジャコババード郡を除く)

同州内の犯罪多発地区における警察の武装強盗団(ダコイト)取締り強化と高速道路警察隊の幹線道路パトロール強化の結果、一般犯罪は減少してきており、日中は犯罪被害に遭う危険性は低くなっています。しかし、夜間は犯罪に遭う危険性が依然として高いので、夜間の移動は差し控えることをお勧めします。

(a) カラチ市

2007年12月のブットー元首相暗殺直後から、PPP党員の抗議行動を発端として、カラチ市内全域に暴動が拡大して、強盗、略奪、殺人等が発生し、死者40人以上、負傷者多数、車両放火1,000台以上等の大きな被害が生じました。その後も、2月の総選挙前後から各政治組織の摩擦が顕在化し、銃撃等による暗殺が連続して発生し、政党活動家に22人以上の死者が出ています。4月に入ってこの摩擦は更に拡大し、9日には、カラチ市内各所で、車両50台以上が放火され、死者8人が出る暴動が発生しています。その後、新シンド州政府が設立され、政治・治安情勢はいったん沈静化していますが、暴動や政治組

織間の軋轢が再発生する潜在性は解消されていません。また、一般犯罪についても、殺人、強盗等の凶悪犯罪発生率は依然高く、けん銃等の銃器を使用した強盗も多発しています。3月以降、街頭犯罪も増加傾向にあり、邦人被害強盗事件も発生しています。市内での行動には、安全に十分配慮し、夜間の単独での外出は避けてください。

(b) ハイデラバード市

以前は市郊外の主要幹線道路で武装強盗団(ダコイト)による強盗事件が多発していましたが、警察による取締り強化の結果、現在発生件数は相当減少しています。しかし、夜間は犯罪被害に遭う可能性が依然として高いので、夜間の移動は差し控えることをお勧めします。

(7) イスラマバード首都圏、北方地域(管理ライン付近、アフガニスタンとの国境付近一帯を除く)

「十分注意してください。」

(イ) イスラマバード首都圏

イスラマバード首都圏では、2007年7月、ラール・マスジット(赤いモスク)事件で多数の死傷者が生じた後も、外国人も利用するアッパラ・マーケット付近での自爆テロや、政治集会をねらった自爆テロが発生し、多くの死傷者が出ましたが、その後、特に2008年2月の総選挙後、治安は小康状態を保っています。一方で、同3月、市内中心部にある外国人がよく利用するイタリア・レストランで爆弾が爆発し、1人死亡、日本人2人を含む15人以上が負傷する事件が発生していますので、引き続きテロに対する注意が必要です。

また、イスラマバード市街地では、強盗、窃盗事件や銃発砲事件などの一般犯罪も頻発していますので、特に、早朝・深夜の外出、人通りの少ない道の通行は避けてください。

(ロ) 北方地域(管理ライン付近、アフガニスタンとの国境付近一帯を除く)

北方地域は、5つの8,000m峰と数多くの7,000m峰が連なるパキスタン有数の観光地であり、例年、多くの外国人(特に日本人)旅行者が訪れています。同地域でかつて頻発していた宗教間抗争も現在は収まり、テロもほぼ皆無で治安は安定しています。しかし、同地域は道路事情が極めて悪く、落石や土砂崩れにより旅行者が死亡するケースも発生しています。また、北方地域への主要幹線道路であるカラコルム・ハイウェイでは、特に雨期の期間(7月～8月)、土砂崩れ等により道路が通行止めになることがよくありますので、陸路での移動を検討される場合には、事前に道路の状況や治安情勢などを十分確認されることをお勧めします。

このような情勢を踏まえ、イスラマバード首都圏及び北方地域(管理ライン付近、アフガニスタンとの国境付近一帯を除く)に発出していた危険情報を「渡航の是非を検討してください。」から「十分注意してください。」に引き下げます。ただし、今後とも、政治情勢の急変等によって、爆弾テロ等の脅威が高まる可能性もありますので、政治集会等大勢が集まる場所に近づくことは避けるなど、必要な安全対策を怠らないよう御注意願います。

(8) パンジャブ州

「十分注意してください。」

パンジャブ州の治安情勢は、パキスタンの他の地域に比べれば比較的安定しているとされていましたが、このところ、以下のような事件等が発生していますので、警戒が必要です。

(イ)ラウルピンディ市

イスラマバードに隣接するラウルピンディ市では、2007年12月、リヤカット公園でブツ元首相を狙った銃撃・自爆テロが発生し、同元首相を含む少なくとも22人が死亡し、多数の負傷者が生じました。また直後に、同事件を受けて、市内を始めパキスタン各地で暴動などが起き、甚大な被害が生じました。

ラウルピンディ市では、その後も、2008年2月、軍医大バスや軍幹部をねらった自爆テロ事件も発生しています。

(ロ)ラホール市

ラホール市は、パキスタンの主要都市の中ではこれまで比較的治安が安定しているとされていましたが、2008年に入り、高等裁判所前での警察官を狙った自爆テロ(1月)、海軍学校内での自爆テロ(3月)、連邦捜査庁庁舎内での自爆テロ及び高級住宅街での連続爆発事件(3月)が発生し、多数の死傷者が出ていますので、他の都市と同様に十分な注意が必要です。

(ハ)シンド州との州境付近

パンジャブ州各地で、武装強盗団(ダコイト)が出没しています。特に、シンド州との州境付近でその頻度が高いので、夜間の通行は避けてください。

3. 滞在に当たっての注意

上記1. 概況(4)の他、下記の事項にも十分留意して行動し、危険を避けるようにしてください。

なお、パキスタンに渡航する際の一般的な注意事項、主要都市の犯罪傾向については、「安全対策基礎データ」を御参照ください。

(1)渡航者全般向けの注意事項

(イ)夜間の単独での外出は極力避けてください。特に女性の方は注意が必要です。また、主要都市を除いては宗教上保守的な地域が多いので、外出の際には男女ともに服装に気をつけるなど、現地の習慣を十分に尊重することが必要です。

(ロ)夜間に陸路を移動する場合には、短距離であってもタクシーや路線バスを利用せず、安全で確実な交通手段を確保するようにしてください。

(ハ)長距離を移動する際には、陸路を避け空路を利用してください。特に、陸路による夜間の長距離移動は、武装強盗団が出没する恐れがありますので、極力控えてください。

(ニ)大麻、アヘン、ヘロイン等の麻薬の売買、所持、使用等は法律で厳しく罰せられます。

(ホ)仏像等の骨董品の国外持ち出しは禁止されています。

(ヘ)パキスタン国内では、空港、橋梁、軍事施設など写真撮影を禁止されている場所が多数存在します。

(2)長期滞在者向けの注意事項

(イ)現地に3か月以上滞在される方は、緊急時の連絡などに必要ですので、到着後遅滞なく在パキスタン日本国大使館(パンジャブ州、北西辺境州、北方地域、AJKの方)、在カラチ日本国総領事館(シンド州、バロチスタン州の方)に「在留届」を提出してください。また、住所その他の届出事項に変更が生じたとき、あるいはパキスタンを去る(一時的な旅行を除く)ときは、必ずその旨を届け出てください。

なお、在留届の届出は、郵送、FAXのほか、インターネット(<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)によっても行うことができます。

(ロ)自宅や職場の周辺で、不測の事態が起きた場合は、事態が収まるま

でその場に待機するとともに、在パキスタン日本国大使館、若しくは在カラチ日本国総領事館に連絡してください。

(ハ) 使用人を雇う際は、使用人が手引きする犯罪も発生していますので、身元の確かな人物を雇用することが大切です。また、解雇する場合でも円満な形で解雇することが重要です。

(3) なお、隣国のアフガニスタン、イラン、インド、中国に対しても、各々渡航情報が発出されていますので、これらにも御留意ください。

(問い合わせ先)

○外務省領事局海外邦人安全課(テロに関する問い合わせを除く)

住所: 東京都千代田区霞が関2-2-1

電話: (代表) 03-3580-3311(内線) 5139

○外務省領事局邦人テロ対策室(テロに関する問い合わせ)

住所: 東京都千代田区霞が関2-2-1

電話: (代表) 03-3580-3311(内線) 3679

○外務省海外安全相談センター(国別安全情報等)

住所: 東京都千代田区霞が関2-2-1

電話: (代表) 03-3580-3311(内線) 2902

○外務省 海外安全ホームページ: <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

○在パキスタン日本国大使館

住所: Plot No. 53-70, Ramna 5/4, Diplomatic Enclave 1,
Islamabad, Pakistan

電話: (92-51) 227-9320

FAX: (92-51) 227-9340

○在カラチ日本国総領事館

住所: 6/2 Civil Lines, Abdullah Haroon Road, Karachi, 75530,
Pakistan

電話: (92-21) 522-0800

FAX: (92-21) 522-0820

▲TOP

[【広域情報】はこちら](#)

[【安全対策基礎データ】はこちら](#)

[【テロ概要】はこちら](#)

Copyright:2008 The Ministry of Foreign Affairs